



発行責任者：歯学部長 宮崎 隆，編集責任者：広報委員長 佐藤裕二
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
ホームページ：<http://www.showa-u.ac.jp>

上海第二医科大学口腔医学院との 交流プログラム

歯学部長 宮崎 隆

上海第二医科大学口腔医学院(歯学部)は、中国の歯学部の中で北京大学や第四軍医科大学(西安)と並んでトップレベルの大学です。本学との交流は、1985年に口腔外科の道健一教授(現名誉教授)が同大学で口蓋裂治療と術後リハビリテーションに関する講演を行ったことに発します。その後、上海から本学に、口腔外科の王国民先生を皮切りに、口腔外科、歯科矯正科、麻酔科から10名以上の留学生を迎えました。現在、王先生が口腔顔面外科教授で口蓋裂センター長、銭先生が矯正科主任教授、徐先生が麻酔科教授として活躍されています。以前から交流プログラムを締結したいと先方からの申し出がありましたが、今回、道名誉教授のご尽力により、4月29日に張志願学院長との間で正式に締結を行いました。本学から道先生と一緒に、私と榎教授(矯正)、高橋助教授(リハビリテーション)が同大学を訪問しました。



式典には道先生と親交の厚い邱前学院長始め大勢の教授が参加し、両校の紹介、記念品の交換等が行われました。



同大学は特に口腔外科のレベルが高く、歯学部・歯科病院は、第二医科大学の付属病院の一つである第九人民病院内にあります。第九人民病院の病棟は9階建てで、その中の4フロア、146床を口腔顔面外科が使用しています。王先生の口蓋裂センターは1フロア24床を使用し、多い日は一日に8ケース、年間で1300ケースの手術をしています。現在1万ケース以上になり、世界でも有数のセンターであり、米国の大学からも出張オペの依頼がくるとのことでした。

本学で口腔リハビリテーション科を新設したことに関心が高く、今後、口蓋裂手術後のリハビリテーションで新たな協力が期待されます。また、上海は経済発展が著しく、生活レベルが急上昇しているため、補綴やインプラント、矯正治療などの需要が高まっており、この領域でも本学と交流を深めたいとのことでした。11月には日中歯科医学大会が上海第二医科大学の主管のもと上海で開催されます。本学からも演題を出して交流の一助としたいものです。

第98回歯科医師国家試験 学生部長 立川哲彦

平成16年度の歯科医師国家試験は3月16日、17日の両日、調布の電気通信大学で実施され、4月19日に合格発表がありました。全国の受験者は3343名、合格者は2493名(合格率74.6%)です。本学は新卒112名が受験し、99名が合格(合格率88.4%)いたしました。これは私立大学の新卒合格率では3位です。しかしながら、既卒者の合格率が悪く、総合すると私立大学では17校中5位(合格率81.5%)、国公立を含めた全国順位では29校中13位となり、昨年度よりも1ポイント悪い順位です。国家試験は年々難しくなっているにもかかわらず、昭和大学は常に高い合格率を維持していますが、新卒者13名の不合格と既卒者11名の不合格を出したことをわれわれ教員は重く受け止め、新卒合格率100%を目指して、更なる教育の充実を図っています。

アデレード大学歯学部におけるPBL

顎口腔疾患制御外科学 片岡竜太

文部科学省の海外先進教育研究実践支援プログラムの補助を受けて、1ヶ月間オーストラリアのアデレード大学で、PBL(問題基盤型学習)を中心に学部教育を見学してまいりました。常勤教員17名が中心となり1学年60~100名の学生に教育していました。アデレード大学のPBLは「臨床(患者)に始まり臨床(患者)に終わる」と言えると思います。学生は近い将来臨床研修医などとして直面する可能性がある患者さんの問題(状況)を与えられ、その問題に取り組む際に自分がわかっていること、よくわからないこと、わからないことに分けます。ここで学生は臨床的な知識に加えて基礎医学、歯学の知識が必要なことを認識します。これについて自己学習を行った後で、もう一度患者さんの状況に戻り、今度は自分がうまく対応できることを認識し、到達感を味わいます。並行して行われている基礎実習、臨床実習、講義、チュートリアルにより、異なる角度から同じテーマについて学び学生は単なる知識ではなく、応用することができる深い理解と技能や態度を身につけていました。



看護部長に就任して 看護部 松崎久美子

30年にわたって昭和大学附属烏山看護専門学校で看護教育に携わってきましたが、このたび歯科病院の看護部長を拝命いたしました。学校で教えてきた看護理論が、病院ではどのように展開されているのか確認する良い機会が与えられ、不安でもあり、楽しみでもあります。



今後保健医療を取り巻く環境はますます複雑多様化し、看護師の業務にも様々な変化が生じてまいります。医療安全の確保、インフォームド・コンセント等社会的責任は非常に大きくなっています。微力ではありますが、前任の斉田部長が積み重ねてこられたことを基として、医療チームにおける看護師の役割を認識し、患者様のニーズに応じた看護ケアを提供できるように、質の向上を目指してまいりたいと考えています。

皆様のご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

医学教育ワークショップに参加して

小児成育学教室 浅里 仁

平成17年4月23日、24日の両日に第16回医学教育セミナーとワークショップが金沢医科大学にて開催されました。このワークショップは、岐阜大学医学部医学教育開発研究センター(MEDC)が開催するもので、ワークショップの一つに” 歯科のPBLシナリオ作成”というユニットがあります。このユニットのコーディネータは本学歯学部歯科放射線学の岡野教授で、13大学26名の教員が集まりました。本学歯学部からはタスクフォースとして、顎口腔疾患制御外科学の片岡先生が、参加者として、歯科放射線学の荒木先生、口腔解剖学の中島先生、歯周病学の伊佐津先生と私の6名が参加いたしました。

「歯科のPBLシナリオ作成」では、4グループに分かれ、それぞれのテーマ(高血圧患者の抜歯、HIV陽性患者の歯科治療、口腔乾燥を訴える患者の診断、気管支喘息のある患者の歯科治療)についてのシナリオを作成しながら、PBLへの理解を深めると同時にシナリオ作成の基本的な技術を学びました。途中、現在PBLを教育に取り入れている大学(新潟大学、日本歯科大学新潟歯学部、東京医科歯科大学、福岡歯科大学、昭和大学)の実際についても講演がありました。

現在、PBLチュートリアル委員会が中心となっており、本学歯学部のPBLを、より教育効果の高いものにするために、今回のワークショップで得られた情報や知識を活用していく所存です。



第83回IADR報告 高齢者歯科 内田圭一郎

3月9日~12日の4日間にわたり、アメリカ・ボルチモアで開催されました。午前中は口演が30箇所以上で一斉に行われ、午後は合計で3000題以上のポスター発表があり、初参加の私はその規模に圧倒されました。Opening ceremonyやWelcome receptionはフランクな雰囲気(参加費免除の抽選会などもあり)、多数の参加者でございました。Morning meeting, Lunch meeting, 開催期間前後の支部会(AADRなど)なども開催され、常にどこかで行事があることには驚きました。



昭和大学からも多数の発表がありました。ディスカッションが非常に活発で、英語の苦手な私も、その熱心さとただならぬ緊張感を感じ、冷や汗をかきながら参加者からの質問に答えました。企業のブースも多彩で、世界各地から最新の歯科製品が並んでおり、モーターショーを彷彿させる華やかさがありました。普段臨床の現場にいる私にとって、各専門分野の世界最先端の研究を目の当たりにし、今後の研究への意欲を掻き立てられる充実した学会でした。

認定医・専門医取得 広報委員長 佐藤裕二

- ・久光 久教授：日本歯科理工学会認定 Dental Materials AdviserおよびDental Materials Senior Adviser
- ・伊藤和雄助教授：日本歯科理工学会認定 Dental Materials Senior Adviser

マスコミへの登場 広報委員長 佐藤裕二

- ・向井美恵教授：4月25日：教育医事新聞 学校歯科医会が学校におけるフッ化物応用ガイドブックを出版(向井美恵委員長)
- ・向井美恵教授：4月25日：教育医事新聞 日本学校保健会が歯と口を通じた「食育」の意義や実践例を冊子で刊行(向井美恵委員長)
- ・大野康亮先生：5月3日 BSCラジオNIKKEI(短波放送)の「歯科医の時間」 大学病院におけるインプラント治療法の現状

受賞 広報委員長 佐藤裕二

- ・七田俊晴先生(高齢者歯科)(5月14日) 日本補綴歯科医学会特定推進研究優秀論文賞

私は大連医科大学口腔医学院と昭和大学歯学部間の交換プロジェクトが締結された後、最初の外国人研修生として2004年10月から2005年3月までの研修を受けました。齶蝕・歯内治療学教室にて久光久教授のご指導のもとで一般歯科治療の臨床と歯学部学生実習を見学しました。また、東光先生のご指導の下で変色歯の漂白について研究しました。さらに、今後久光久教授、東光先生、星野先生などと歯の漂白についての共同研究を継続します。

日本に来てから、久光久教授に熱心に、誠意をもって教えていただきました。久光久教授の傍で勉強して、教授の豊富な知識と優れた技術及び患者さんに優しい態度など、全て深い印象を受けました。私は貴重な経験をし、大変勉強になりました。研修時間が短いのに、私は日本の歯科臨床における治療方法と臨床研究及び歯科理工の基礎研究などが目覚ましいスピードで進展しており、新しい研究成果が日々蓄積していることを実感しました。学術のエリアを越え、慣れない日常生活においても、久光久教授をはじめ、身の周りの先生方及び国際交流センターの方々常に温かいご支援をいただき、毎日豊かで充実した研修生活を送ることができました。とても感謝しております。

私は、中国に帰って、昭和大学で修得した知識をできるだけ活かして、中国の歯科医療の向上と発展に努め、さらに中日両校の学術交流を深めることに貢献してまいりたいと思います。

最後に、研修期間中に大変お世話になりました久光久教授、宮崎隆歯学部長、川和忠治歯科病院長、東光先生、医局の先生方、国際交流センターの方々心から感謝し、御礼申し上げます。

中国 大連医科大学附属第一医院口腔内科 張虹



This is Dr. Md. Shahin Hossain, Bangladeshi. I attend a one year clinical training in Endodontics under the supervision of Prof. Koukichi Matsumoto DDS, Ph.D, the Chariman and head of the department of Operative Dentistry and Endodontology.



Here I have worked with my Professor in hospital and do a research work on the topic—"A comparative study of the efficiency of Flex—Master NiTi rotary and K—Flexofile stainless steel hand instruments". The result of my research was as follows—The use of Flex—Master instruments resulted in significantly less straightening of the root canal curvatures and a shorter preparation time compared to K—Flexofiles ($P < 0.001$). They resulted in less debris, but left a thicker smear layer at the apical third of root canal than K—Flexofiles.

And regarding clinical work with Professor I have really got some new valuable experiences that I would never get if I would not come and study here. One thing mentionable that the modernized equipments and technology along with good & expertized technical hand make the total dental management of the patients of our University hospital a good, long lasting and realistic one. I really feel proud of being a student of Showa University Dental School as well as Prof. Koukichi Matsumoto.

Another thing mentionable that all the teachers, dentists and other employees working here are very much helpful and cordial. I would like to appreciate it very much.

In the conclusion I would like to tell that though I was alone here without my family and relatives and in a different cultural society but in the last one year that I gained from my Professor and from this University is unparallel and well worthy for my profession in the long run.

Thanking you.

ふれあい看護体験 看護部 松崎久美子

5月12日は「看護の日」、5月8日～5月14日「看護週間」です。日本看護協会は、全国行事レベルで「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、市民のために保健医療福祉施設(3,000)で見学や簡単な看護体験を実施しています。当院も社会人2名を受け入れ、患者様の環境の整備・清潔ケア・氷枕の使い方等を身近に看護を体験して頂きました。また、外来待合室では昭和大学歯科病院で働く看護師の役割についてビデオを作成・放映致しました。

小さな・小さな活動ではありませんが、地域と気軽にコミュニケーションが取れるきっかけになれば幸いです。



第4回学長杯ゴルフ大会 広報委員長 佐藤裕二

4月7日に千葉市・東急セブンハンドレッドクラブで、31名が好天のもと腕を競い合いました。歯学部は残念ながら優勝こそ逃しましたが、2,3,4位を独占するという大活躍で、文武両道の強さを発揮しました。



2位の川和忠治歯科病院長

追悼 平田智秀先生 歯科補綴学 菅沼岳史

平田智秀先生は、新潟県かぐら・みつまたスキー場でスノーボード滑走中の不慮の事故により、平成17年1月11日、永眠されました。突然の訃報に教室員一同大きなショックを受けたと同時に、人間の命のはかなさを痛感致しました。

平田先生は、昭和大学歯学部を平成6年にご卒業され、歯科補綴学教室助手として臨床、教育、研究にご活躍され、ますますの発展が期待されていただけに、このようなかたちでお亡くなりになられたことは、誠に残念であります。ご家族におかれましては、我々が計り知れないほどの深い悲しみと存じますが、四十九日の法要のあとに昭和大学へ奨学寄付金として多額のご寄付をいただきました。

ご家族のご厚意に感謝するとともに平田先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

歯科病院に感謝状 広報委員長 佐藤裕二

・歯科病院に世田谷区立駒沢中学校より感謝状



診療統計 (平成17年4月分)

区分	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	16695	725.9	789.6	678.4
入院患者	362	12.1	15.0	13.4

行事予定 広報委員長 佐藤裕二

- 6月18日(土) : 白菊の集い
- 6月25日(土) : 父兄会
- 7月 2日(土) : 昭和大学歯学会
- 7月23-24日 : OSCEトライアル
- 7月25-27日 : 医学教育者のためのワークショップ
- 7月26日(火) : 臨床実習ガイダンス
- 8月 8日(月) : 臨床実習開始
- 8月18-20日 : 歯学教育者のためのワークショップ



広報委員長から 佐藤裕二

おかげさまを持ちまして、歯学部だよりも1年半にわたり18号を発行することができました。手作りの広報誌であり、素人っぽいセンスですが、速報性と暖かみを出すことを心がけたつもりです。次号からは、五十嵐教授(口腔微生物学)が広報委員長を担当していただくことになっておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

最後になりますが、原稿を頂きました先生方、編集を担当していただきました広報委員各位、教務のみなさんに厚く感謝いたします。

編集後記 広報委員 樋口大輔(歯科補綴学)

楽しかった?GWが終わり、仕事はまだ始まりました。次の祝日は7月の海の日です。夏休みをいまから楽しみに日々がんばりましょう。

特に今回は急な執筆依頼にもかかわらず、原稿を頂きました先生方に感謝いたします。